

2023.9.27(水) <No.76>

伝笑鳩例会<幸 裕 (=交友) 録>(頓珍漢な会話)

1. 「あの有川浩(今は[ひろ])のデビュー作『塩の街』を読んだで」

<幸>確か 2021 年 3 月号でおもしろい小説読んだゆうてお前が<伝笑鳩>で「阪急電車」を取り上げたんやったな。

<裕>覚えててくれはっておおきに。この時から有川はんは「ただ者ではない」思うて、何冊か読んでんねんけど、読者を小説のストーリーに引きずり込むパワーは健在やったで。

<幸>どんな話やねん？

<裕>塩の結晶が地球に飛来したことで人間が塩化し世界が死滅していく・・・ちゅう話。

2004 年の作やシライトノベル作家ちゅうことになってるけど、最近のコロナ禍を彷彿とさせるような筆致でワテは読みごたえを感じたで。

<幸>他にどんな作品があるねん？

<裕>「レインツリーの国(2006)」「クジラの彼(2007)」「植物図鑑(2009)」「三匹のおっさん(2009)」  
等等。本は文庫本も含め市立や区立の図書館にあるで。本の「ありか」が「わ」からんかったら出来れば「ひろ」い図書館の小説コーナーで探してみなはれ。本の<師匠>の阿部さんか、図書館の師匠、間違い<司書>の方に聞いてもええで。

2. 「この 2023 年 3 月で閉店した駅そば店「川村屋」9 月から復活！」

<裕>今年 3 月末で惜しまれながら閉店した JR 桜木町駅そばの駅そば店「川村屋」が 9 月 1 日から復活してんで。あーうれし！

<幸><伝笑鳩>3 月号で取り上げたお前の好きやった店やろ。確か経営者も従業員もいつの間にか年を重ね、後継ぎもおらんちゅうことで年度末で閉めはったんやったな。

<裕>そやねんけど、駅地下ならぬ<ど駅近>やのに「閉めました」ちゅう貼り紙だけで、取り壊すでも改装するでもなくずっとそのままやさかい変やなどは思ててん。伊藤博文公に開業許可をもらて 1900 年から最初は駅食堂レストラン(後に駅そば店に特化)として、123 年間続いた歴史ある店ちゅうことで経営者の娘さん夫婦が後を継ぐ決心をしはってんで。

<幸>鯉節で自家製だしを作るのも続けはるんやろな。

<裕>もちろんや。再開初日の 1 日に行ったら聞きつけたお客さんで行列が出来てて、人気メニューの鳥そばなんか早々に売り切れやったで。

<幸>わしもいっぺん行きたいねんけどそっちへ一時帰省した今年のお盆の時はお店がまだ閉店中やった。秋のお彼岸に行くのが悲願やってんけど、もう過ぎてもうたな。残念！

<裕>まかして。たまにしか来られへんお父ちゃんの代わりにワテが<たま来=玉子>そば食べといたるわ。

以 上

(大鳥羽 裕太郎)